日本と中国の家庭文化の比較を通した親のしつけの差異：両国の大学生を対象にして

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-09-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 劉, ニ メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4585

日本と中国の家庭文化の比較を通した親のしつけの差異

－両国の大学生を対象にして－

劉　　妮

大阪樟蔭女子大学大学院修了生・龍谷大学文学研究科臨床心理学専攻単位満期修得依願退学

要約

日本と中国は一衣帯水の隣国であり，東洋文化を伝承しているが，中国の家庭文化で育てられた筆者は，日本に留学してから，両国の文化の違い，特に子どもを育てる環境になる家庭内の文化が異なることに気づいた。本研究は 1996 年に染矢らによって作成された日本語版 EMBU 尺度（Egna Minnen av Barndoms Uppfostran）を用いて日本の A 大学と B 大学の大学生 405 名，中国の C 大学の大学生 545 名を対象に調査を行った。日本において，働くことで家計を支える役割を担う父親は機能していると言えるが，家庭に父親が不在であることにより，昔のように父性的な役割をする父親が減少し，母親が自分の役割を果たした上で父親の役割を担おうとすることで，子どもを守るという家庭文化が形成されている。一方，中国においては，日本のように小さい子どもを保育所などに預ける環境がないため，共働きをする親は，子どもの世話を祖父母である自分の親に託したり，お手伝いさんに任せたりする現状になり，父親，母親，子どもの役割も含めた三者関係が成り立たない家庭文化が形成されている。

キーワード：家庭文化，親のしつけ，父親の役割，母親の役割

問題・目的

父親と母親それぞれの役割は子どもとの関係の中で成立するものであるが，その親たちも元々は子として自分の親との関わりの中で特有の自文化を成長させ，それをモデルとして子どもに関わっている。その特有の自文化は,父親と母親が自分の親との間で作り上げてきた家庭文化であり，さらに新しく築かれた家庭の中で新たな家庭文化が作り上げられていく。

日本と中国は一衣帯水の隣国であり，東洋文化を伝承しているが，中国の家庭文化で育てられた筆者は，日本に留学してから，両国の文化の違い，特に子どもを育てる環境になる家庭内の文化が異なることに気づいた。例えば，筆者の生活していた中国の山東省では，父親と母親が共働きをする家庭がほとんどであり，子どもを小さい頃から祖父母に預けて長年にわたって子どもの世話を主にその祖父母に託すか，育児専門のお手伝いさんを雇い，子どものオムツ交換から寝かしつけ，離乳食作りだけでなく，子どものしつけまでも任せておくといったケースがよく見られる。一方，日本では女性が出産のため仕事をやめ，子育てに専念するか，働きに行くとしても子どもを昼間は保育所などに預け，夕方になって子どもを迎えに行き，共に生活している状態である。中国ではその子どもの親以外の人が子どもの世話やしつけに参加し，日本では親，特に母親ができる範囲で子育てをするというように，両国における家庭文化の違いが見られる。

邢（2015）は日本と中国における家庭教育概念の比較に関する研究において，「中国の伝統的文化では，父親と母親の役割分担が明確にされ，父親は“正義”“権威”のイメージを持ち，子どもの知性教育を主に担当しているが，母親は子ども

の普段の生活の世話をし，情緒面や感情面において育てることがメインになる。日本において長い間，家庭内では，家父長的家族制度があり，父親が子どもに対して父性的な厳しい訓練を行わなければならないため，父親と子どもとの間に一定の距離が置かれ，子どもが父親を尊重し，それに順応していた状況の中で，母親との接触が多くなり，母親への依存が高い。」と述べている。伝統的文化から見れば，両国の家庭内で子どもへのしつけをする時，親の役割が類似していると感じるが，現在では社会・経済的な事情により，両国の親が家庭の中でおかれている立場や役割が変わってきている。そこで本研究では現在の日本人及び中国人大学生が親の役割をどのように認知しているか，また父親と母親それぞれからのしつけを受けた時，どのように感じているのかを検討していきたい。

両国の親のしつけの差異を検討する場合に，子が親の養育をどのように認知しているかに関する尺度が必要となり，両国の大学生を対象として調査を行うことを考え，養育体験認知に関する自己記入式調査票である尺度を用いた。染矢ら（1996）は研究を通して，「日本語版 EMBU 尺度は諸国語版と同一の安定した因子構造と高い信頼性を持つことが確認され，今後，比較文化的研究や精神疾患を対象とした研究への利用に有用と思われる」と述べている。本研究は，日本と中国の親のしつけの仕方，つまり家庭文化を比較して，親の養育行動と養育態度の差異を検討することから，両国の文化を比較することを目的としているため，染矢らの作成した日本語版 EMBU 尺度が研究に相応しいと考えられる。

方法

調査対象者

日本の A 大学，B 大学に所属する大学生 405 名（男性：154 名，女性：248 名，不明：3 名，平均年齢：20.3 歳，*SD*＝1.8，中国の C 大学に所属する大学生 545 名（男性：211 名，女性：315 名，不明：19 名，平均年齢：19.7 歳，*SD*＝1.1）を対象に調査を行った。

調査時期

日本人大学生に対する調査は 2014 年 1 月から 2014 年 4 月，中国人大学生に対する調査は 2014 年 3 月から 2014 年 5 月に実施した。

調査方法

講義時間中に担当教員が質問紙を配布し，調査対象者にはその場で回答することを求め，質問紙はその場で回収された。

調査内容

染矢ら（1996）による日本語版 Egna Minnen av Barndoms Uppfostran 尺度（養育体験認知に関する自己記入式調査票，以下，日本語版 EMBU：81 項目）の質問項目を用いて，日本人大学生を対象に，父親と母親それぞれから受けた養育行動を，「1. まったくなかった」，「2. たまにあった」，「3. 時々あった」，「4. よくあった」，「5. いつもあった」の 5 件法にて調査が実施された。

中国人大学生用の調査票は岳冬梅（1993）の中国語版 EMBU 尺度の父親 58 質問項目と母親 57 質問項目を基にして，81 項目の中国語版 EMBU 尺度を作成した。具体的には，日本語版尺度には含まれているが，岳冬梅の中国語版 EMBU 尺度には含まれていない質問項目を加え，本研究用の尺度を作成した。加えた質問項目は中国留学生によって中国語に訳され，そして中国 C 大学心理学専攻修士課程に在籍する中国人大学院生によって質問項目の文意の一致性が確認された。中国人大学生を対象に，父親と母親それぞれから 1. まったくなかった」，「2. たまにあった」，「3. 時々あった」，「4. よくあった」，「5. いつもあった」の 5 件法にて調査が実施された。

結果と考察

1. 両国の大学生を対象とした日本語版 EMBU 下位尺度得点

日本語版 EMBU 尺度（染矢ら，1996）の因子構造に従い，日本人大学生と中国人大学生を対象として，「拒絶」，「情緒的暖かみ」，「過保護（成績重視）」，「過保護（過干渉）」，「ひいき」の 5 つ

表１　日本人大学生の日本語版 EMBU 下位尺度得点

	項目内容	N	平均値	SD	N	平均値	SD
			父親			母親	
第1因子	拒絶（父親α＝.870; 母親α＝.866）						
6	両親は，ほんの小さな違反でも私に罰を与えました。	394	1.69	0.923	404	1.84	0.978
11	私は，両親が私に公平に罰を与えると思いました。	383	2.81	1.336	390	2.87	1.301
12	私は，両親が私には厳しいと思いました。	390	2.11	1.188	400	2.34	1.258
23	両親は，叱られるに値する以上に私を叩きました。	383	1.35	0.837	393	1.34	0.860
27	両親は，近寄り難い存在でした。	384	1.67	1.140	394	1.26	0.710
30	両親は，私が必要な物を出し惜しみしました。	384	1.48	0.864	394	1.53	0.880
33	私は一家の“厄介者”または″犠牲者″として扱われました。	383	1.29	0.795	393	1.33	0.823
37	私は，両親が彼らの不幸を私のせいにしていると感じました。	383	1.19	0.630	393	1.23	0.677
44	両親は，私にいじわるで私に恨みを持っていました。	382	1.13	0.546	392	1.13	0.557
49	両親は，″私たちは，お前のために，こんなに多くのことをしてあげたし･･･″	381	1.35	0.877	391	1.41	0.946
55	私は，何も悪いことをしていないのに両親に叱られました。	380	1.46	0.875	390	1.61	0.984
57	両親は，私の家での振舞いには賛成できないと言いました。	379	1.62	0.880	389	1.90	1.103
61	何かが起こると，両親が叱るのは兄弟や姉妹の中で私でした。	350	1.51	0.948	358	1.67	1.078
63	両親は，私に対して，普段はぶっきらぼうでした。	378	1.99	1.286	388	1.55	0.924
64	両親は，ほんの些細なことでも私にひどく罰を与えようとしました。	378	1.22	0.721	388	1.21	0.632
65	両親は，理由もなく私を叩きました。	379	1.11	0.520	389	1.13	0.566
68	私は，両親に叩かれました。	378	1.64	0.965	388	1.77	1.057
72	両親は，私には許してくれないものでも兄弟や姉妹には与えました。	353	1.41	0.800	360	1.47	0.824
76	両親は，何の理由も言わず，私に腹を立てました。	381	1.39	0.802	391	1.48	0.899
第2因子	情緒的暖かみ（父親α＝.915; 母親α＝.909）						
2	両親は，私を好きだと言葉や態度で示しました。	394	2.86	1.275	404	3.29	1.271
4	私は，両親が私を好きだと感じました。	393	3.53	1.197	403	3.82	1.096
21	私は，物事がうまく行かない時，両親が私を慰め励まそうとしていると･･･	385	2.79	1.339	394	3.35	1.280
32	私は，困難に直面した時，両親が応援してくれていると感じました。	384	3.40	1.350	394	3.83	1.204
39	両親は，私のことを好きだということを示しました。	381	2.92	1.314	391	3.36	1.258
43	私は，両親は私と一緒にいたいのだと感じました。	382	3.05	1.373	392	3.34	1.339
47	両親は，私の青年時代を刺激的で，興味深く，学ぶことも多いものに･･･	381	3.03	1.401	391	3.20	1.285
48	両親は，私を誉めました。	380	3.20	1.178	390	3.58	1.045
54	私が悲しい時，両親はよく私を慰めてくれました。	377	2.57	1.339	389	3.27	1.344
67	両親は，私の興味のあることや趣味にも一緒に参加しました。	379	2.36	1.198	388	2.62	1.232
74	私と両親との間には，暖かさと優しさがあると感じました。	378	3.71	1.286	388	3.96	1.139
81	両親は私を抱きしめてくれました。	381	2.07	1.215	391	2.74	1.357
第3因子	過保護（成績重視）（父親α＝.550; 母親α＝.577）						
31	両親は，私がよい点数を取ることに関心がありました。	384	2.85	1.299	394	3.24	1.254
38	両親は，私が一番よくなるように，動機づけし励まそうとしました。	382	2.54	1.281	392	2.99	1.298
52	学業やスポーツの成績のようなことになると，両親は私に高い要求を･･･	380	1.96	1.219	390	2.20	1.288
第4因子	過保護（過干渉）（父親α＝.471; 母親α＝.488）						
26	私が必要とするものを友人が持っていると，両親は私にも持たせようと･･･	382	1.92	1.203	392	2.07	1.249
42	私に小さな秘密があったら，私がそれを話すよう，両親はいつも望んで･･･	382	1.83	1.104	392	2.34	1.344
46	私は，家に帰った時，何をしていたかをいつも両親に話さなければなり･･･	381	1.57	0.945	391	2.05	1.235
第5因子	ひいき（父親α＝.773; 母親α＝.756）						
3	兄弟や姉妹と比べて，私は両親に甘やかされました。	368	2.44	1.267	375	2.47	1.219
10	両親は，兄弟や姉妹には許可しないものでも私には与えてくれました。	365	1.54	0.866	371	1.55	0.885
29	私は，両親が兄弟や姉妹よりも私を好きだと感じました。	356	1.67	1.047	363	1.67	1.008
79	兄弟や姉妹との関係で，両親は私のほうに味方しました。	350	1.83	1.055	357	1.90	1.024
80	私が悪い場合でも，両親は兄弟や姉妹より私の立場に立ってくれました。	351	1.45	0.840	358	1.45	0.848

表 2　中国人大学生の日本語版 EMBU 下位尺度得点

		項目内容	N	平均値	SD	N	平均値	SD
				父親			母親	
第1因子		拒絶（父親α＝.901; 母親α＝.900）						
	6	両親は，ほんの小さな違反でも私に罰を与えました。	533	1.56	0.844	539	1.68	0.896
	11	私は，両親が私に公平に罰を与えると思いました。	525	4.04	1.023	534	4.06	0.992
	12	私は，両親が私には厳しいと思いました。	531	2.36	1.081	535	2.36	1.085
	23	両親は，叱られるに値する以上に私を叩きました。	534	1.45	0.824	540	1.46	0.833
	27	両親は，近寄り難い存在でした。	536	1.49	0.871	541	1.39	0.815
	30	両親は，私が必要な物を出し惜しみしました。	536	1.50	0.783	542	1.55	0.827
	33	私は一家の“厄介者”または″犠牲者″として扱われました。	509	1.28	0.689	514	1.28	0.696
	37	私は，両親が彼らの不幸を私のせいにしていると感じました。	533	1.38	0.786	539	1.41	0.796
	44	両親は，私にいじわるで私に恨みを持っていました。	535	1.30	0.719	541	1.34	0.763
	49	両親は，″私たちは，お前のために，こんなに多くのことをしてあげたし･･･″	534	1.63	0.974	540	1.73	1.030
	55	私は，何も悪いことをしていないのに両親に叱られました。	535	1.24	0.640	541	1.24	0.635
	57	両親は，私の家での振舞いには賛成できないと言いました。	535	1.86	1.061	540	1.92	1.086
	61	何かが起こると，両親が叱るのは兄弟や姉妹の中で私でした。	277	1.48	0.931	280	1.44	0.861
	63	両親は，私に対して，普段はぶっきらぼうでした。	536	1.24	0.636	542	1.22	0.610
	64	両親は，ほんの些細なことでも私にひどく罰を与えようとしました。	536	1.30	0.671	542	1.31	0.664
	65	両親は，理由もなく私を叩きました。	534	1.17	0.595	539	1.19	0.645
	68	私は，両親に叩かれました。	535	1.25	0.635	542	1.29	0.738
	72	両親は，私には許してくれないものでも兄弟や姉妹には与えました。	278	1.29	0.740	281	1.28	0.767
	76	両親は，何の理由も言わず，私に腹を立てました。	535	1.34	0.732	541	1.35	0.726
第2因子		情緒的暖かみ（父親α＝.880; 母親α＝.874）						
	2	両親は，私を好きだと言葉や態度で示しました。	534	4.20	0.966	540	4.31	0.894
	4	私は，両親が私を好きだと感じました。	526	4.42	0.829	531	4.49	0.758
	21	私は，物事がうまく行かない時，両親が私を慰め励まそうとしていると･･･	535	3.94	1.152	541	4.03	1.078
	32	私は，困難に直面した時，両親が応援してくれていると感じました。	536	4.01	1.021	542	4.07	0.982
	39	両親は，私のことを好きだということを示しました。	535	3.32	1.293	541	3.49	1.254
	43	私は，両親は私と一緒にいたいのだと感じました。	534	4.28	0.944	539	4.37	0.877
	47	両親は，私の青年時代を刺激的で，興味深く，学ぶことも多いものに･･･	535	3.03	1.343	542	3.07	1.339
	48	両親は，私を誉めました。	534	3.60	1.151	541	3.68	1.102
	54	私が悲しい時，両親はよく私を慰めてくれました。	533	3.69	1.205	539	3.81	1.120
	67	両親は，私の興味のあることや趣味にも一緒に参加しました。	536	2.65	1.302	542	2.68	1.280
	74	私と両親との間には，暖かさと優しさがあると感じました。	536	4.12	1.070	541	4.23	0.988
	81	両親は私を抱きしめてくれました。	535	2.36	1.273	539	2.62	1.356
第3因子		過保護（成績重視）（父親α＝.610; 母親α＝.620）						
	31	両親は，私がよい点数を取ることに関心がありました。	536	3.00	1.211	542	3.11	1.195
	38	両親は，私が一番よくなるように，動機づけし励まそうとしました。	532	3.70	1.145	538	3.74	1.122
	52	学業やスポーツの成績のようなことになると，両親は私に高い要求を･･･	533	3.00	1.197	537	3.05	1.203
第4因子		過保護（過干渉）（父親α＝.388; 母親α＝.393）						
	26	私が必要とするものを友人が持っていると，両親は私にも持たせようと･･･	534	3.00	1.237	540	3.01	1.214
	42	私に小さな秘密があったら，私がそれを話すよう，両親はいつも望んで･･･	536	3.07	1.296	542	3.28	1.282
	46	私は，家に帰った時，何をしていたかをいつも両親に話さなければなり･･･	534	1.70	0.951	541	1.78	1.004
第5因子		ひいき（父親α＝.743; 母親α＝.749）						
	3	兄弟や姉妹と比べて，私は両親に甘やかされました。	272	3.38	1.458	275	3.42	1.466
	10	両親は，兄弟や姉妹には許可しないものでも私には与えてくれました。	274	2.39	1.277	279	2.42	1.258
	29	私は，両親が兄弟や姉妹よりも私を好きだと感じました。	268	2.48	1.520	272	2.49	1.517
	79	兄弟や姉妹との関係で，両親は私のほうに味方しました。	273	2.41	1.437	277	2.43	1.447
	80	私が悪い場合でも，両親は兄弟や姉妹より私の立場に立ってくれました。	272	1.36	0.788	276	1.37	0.810

の下位尺度得点（合計点）の算出を行った（表 1，表 2）。下位尺度得点の内的整合性に関して，日本と中国とでは「拒絶」,「情緒的暖かみ」の内的整合性は極めて高い。「ひいき」に関しては構成する項目数が 5 つと少ない点を考慮すると，十分な内的整合性が得られたと判断する。一方,「過保護（成績重視）」と「過保護（過干渉）」の内的整合性は低い。以上のように両国の結果は類似しており，両国の大学生がそれぞれの父親と母親に対して抱いている感情の構造が類似していることが推測できる。日本語版 EMBU 尺度は染矢らが 1996 年に作成したものであるが，尺度作成より 20 数年が経過した本研究調査対象の現在の大学生にとって,「拒絶」,「情緒的暖かみ」,「ひいき」の項目に関しては適用できると言えるだろう。両国とも「過保護」の下位尺度の内的整合性が低く，信頼性は低いが，考察としては意味があると考えられる。また，染矢らが尺度を作成した 20 数年前と比べ，親のしつけの仕方が変化していることが考えられるが，本研究では日本と中国の家庭文化の比較を通して親のしつけの差異を検討するものであり，新しい尺度を一から作成するより，既存の尺度を使用することが妥当だと考える。

2. 日本版 EMBU 尺度に関する日本と中国との比較

日本語版 EMBU 尺度について，日本と中国との比較を *t* 検定によって行った。表 3 に示したように，父親と母親の 5 因子において，日本と中国とでは有意な差が認められた。親に対して,「拒絶」「情緒的な暖かみ」「過保護（成績重視）」「過保護（過干渉）」「ひいき」において日本人大学生より中国人大学生の方が高く感じることを示している。日本人大学生より中国人大学生が感じる父親と母親のしつけの仕方の方が拒絶的だが，より情緒的な暖かみがあることがわかった。親のしつけが厳しく，親との距離感を持つ一方で，親子には密接な関係があることが考えられる。また，成績に対する期待，個人への干渉は，中国人の親の方がより強いと言える。中国では 80 年代から一人っ子政策が実施されていたため，対象となった中国人大学生の多くは兄弟がない一人っ子であり，家庭では注目度が高い存在になっている。これにより，中国人大学生が家庭の中心として親と密接な関係を持ち，兄弟がいる日本人大学生より親に干渉され，成績が期待されることが考えられる。

表 3　日本版 EMBU 尺度に関する日本と中国の比較

	国	人数	平均値	SD	t 値	
父拒絶	日本	338	29.38	9.55	2.69	**
	中国	259	31.55	10.01		
父情緒的暖かみ	日本	366	35.48	11.17	12.10	***
	中国	516	43.70	8.95		
父過保護（成績重視）	日本	378	7.34	2.77	12.91	***
	中国	529	9.70	2.67		
父過保護（過干渉）	日本	377	5.33	2.29	15.49	***
	中国	532	7.76	2.35		
父ひいき	日本	344	8.87	3.68	9.12	***
	中国	256	11.97	4.63		
母拒絶	日本	345	29.88	9.42	2.16	*
	中国	262	31.58	9.87		
母情緒的暖かみ	日本	376	40.52	10.56	6.77	***
	中国	519	44.85	8.55		
母過保護（成績重視）	日本	388	8.41	2.83	8.22	***
	中国	533	9.90	2.66		
母過保護（過干渉）	日本	387	6.46	2.70	9.54	***
	中国	539	8.06	2.37		
母ひいき	日本	351	9.01	3.56	9.11	***
	中国	259	12.04	4.67		

（*p<. 05, **p<. 01, ***p<. 001）

3. 両国の大学生を対象とした日本語版 EMBU 尺度父親 5 因子間の相関係数

日本人大学生を対象として，日本語版 EMBU 尺度の父親 5 因子間の相関関係の分析を行った。表 4 に示したように，「情緒的暖かみ」と「過保護（過干渉）」，「過保護（成績重視）」と「過保護（過干渉）」はかなり相関があることが示唆された。これは日本人大学生にとって，父親から「情緒的暖かみ」「過保護（成績重視）」のしつけを受けた時に過干渉と感じる傾向が高いことを示している。

「情緒的暖かみ」因子と「過保護（成績重視）」因子の内容からみれば，父親の関わりが情愛的で激励が多く，また学業や成績を重視するものであった場合は，日本人大学生は，父親から干渉されていると感じている傾向があると言えよう。このような結果になった背景として，職場と住居が離れているために父親が単身赴任になっていることや，仕事で家にあまりいない存在であるために父親との関わりが薄くなっていることが考えられる。

中国人大学生を対象として日本語版 EMBU 尺度父親 5 因子間の相関関係の分析を行った結果，表 5 に示したように，5 因子間には強い相関関係が見られなかった。第 1 因子の「拒絶」の内容から考えれば，情愛的な気持ちを感じる場合には，父親からの拒絶的な態度や行動を受けていなかったことがわかった。表 2 の中国人大学生の日本語版 EMBU 下位尺度得点で示したように，第 1 因子と第 2 因子の項目の平均値からみれば，中国人大学生は拒絶より父親からの情緒的な暖かみを感じている傾向があると言えよう。第 1，2，3 因子がそれぞれ第 4 因子との相関を示したことは，中国人大学生にとっては，父親の厳しさや情愛的な関わり及び成績の重視は，自分への干渉だと感じていると言えよう。調査対象となった中国人大学生は一人っ子が多く，兄弟がいないことで基本的には自分の気持ちや要望を受け入れてもらっているが，父親に干渉されていると感じる傾向もあると言える。

一人っ子の場合は，親教育的熱心さや時間的・経済的なゆとりがあることが可能性として挙げられ，生活の中で親が子どもに接する余裕を持っているため，子どもの行動や子どもへの関心が高くなっていることが考えられる。また，中国では“望子成龙，望女成凤（息子の出世を願う，娘の

表 4　日本人大学生の日本語版 EMBU 尺度父親 5 因子間の相関係数（n＝405）

	拒絶	情緒的暖かみ	過保護（成績重視）	過保護（過干渉）	ひいき
拒絶	1.000	−.367 **	.291 **	.208 **	−.085
情緒的暖かみ	−.367 **	1.000	.342 **	.400 **	.169 **
過保護（成績重視）	.291 **	.342 **	1.000	.491 **	.160 **
過保護（過干渉）	.208 **	.400 **	.491 **	1.000	.247 **
ひいき	−.085	.169 **	.160 **	.247 **	1.000

表 5　中国人大学生の日本語版 EMBU 尺度父親 5 因子間の相関係数（n＝545）

	拒絶	情緒的暖かみ	過保護（成績重視）	過保護（過干渉）	ひいき
拒絶	1.000	−.363 **	.055	.244 **	.106
情緒的暖かみ	−.363 **	1.000	.177 **	.336 **	.235 **
過保護（成績重視）	.055	.177 **	1.000	.283 **	.204 **
過保護（過干渉）	.244 **	.336 **	.283 **	1.000	.238 **
ひいき	.106	.235 **	.204 **	.238 **	1.000

出世を願う)”という伝統的な考え方があり，多くの親，特に子どもの教育を担当する父親は，子どもへの要求が厳しく，学業への期待も高い傾向がある。子どもへの期待が高いために，より良い生活環境を子どもに提供したり，子どもを守る思いを持って関わりすぎてしまったりしてしまう父親は存在していると思われる。

4. 両国の大学生を対象とした日本語版 EMBU 尺度母親 5 因子間の相関係数

日本人大学生を対象として日本語版 EMBU 尺度に関して母親 5 因子間の相関関係の分析を行った。表 6 に示したように，「過保護（成績重視）」と「過保護（過干渉）」とはかなり相関があることが示された。これは日本人大学生にとって，母親から成績重視のしつけを受ける時に過干渉と感じる傾向が高いことを示唆している。日本の近代の基本的な家族形態は，夫と妻とその子どもたちから構成される核家族であり，そこで子どものしつけを主として担当するのは，妻つまり子どもの母親であると見なされている。子どもは小さいほど母親と一緒にいる時間が長く，母親と子どもの情緒的な結びつきが強いと指摘されている。このような強い情緒的な結びきは，相互依存の強さにも大きく関係すると思われる。日本人大学生は情緒的な依存相手である母親に，学業や成績について指摘されることを関わりすぎだと感じているのかもしれない。

中国人大学生を対象として相関関係の分析を行った。表 7 に示したように，5 因子間には強い関係性が見られなかった。中国人大学生の母親は父親と似た関わり方をしているという結果が認められる。例えば，第 1 因子と第 2 因子との関係，第 2, 3，5 因子と第 4 因子との関係に示したように，母親からは，拒絶より情緒的な暖かみを感じている傾向があり，そして母親からの厳しさ，情愛的な関わり及び成績の重視は，自分への干渉だと感じている。また，兄弟がいないことにより自分が家族の中心にされてはいるが，母親に干渉されていると感じる傾向があるかもしれない。異なっている点としては，第 2 因子と第 3 因子との間においてやや相関が見られた。母親からの情愛的な関わりや激励表を感じた場合は，学業や成績への期待によるものであると感じる時があるのかもしれない。

表 6　日本人大学生の日本語版 EMBU 尺度母親 5 因子の相関係数（n＝405）

	拒絶	情緒的暖かみ	過保護(成績重視)	過保護(過干渉)	ひいき
拒絶	1.000	−.345 **	.280 **	.256 **	.023
情緒的暖かみ	−.345 **	1.000	.306 **	.344 **	.146 **
過保護(成績重視)	.280 **	.306 **	1.000	.472 **	.162 **
過保護(過干渉)	.256 **	.344 **	.472 **	1.000	.306 **
ひいき	.023	.146 **	.162 **	.306 **	1.000

表 7　中国人大学生の日本語版 EMBU 尺度母親 5 因子間の相関係数（n＝545）

	拒絶	情緒的暖かみ	過保護(成績重視)	過保護(過干渉)	ひいき
拒絶	1.000	−.392 **	.017	.171 **	.046
情緒的暖かみ	−.392 **	1.000	.201 **	.333 **	.198 **
過保護(成績重視)	.017	.201 **	1.000	.298 **	.190 **
過保護(過干渉)	.171 **	.333 **	.298 **	1.000	.247 **
ひいき	.046	.198 **	.190 **	.247 **	1.000

総合考察

1. 父親のしつけについて

しつけにおける父親の役割について，辻（1981）は「生産活動が家庭とその周囲で営まれていた時代や，封建社会の武士の家庭などでは，父親が直接間接に子どものしつけの一部を分担していたはずである。しかし，近代以後，夫（父親）の経済活動がもっぱら家庭以外の場所で行われる傾向が増大するにつれて，しつけにおける父親の役割は，実質的にも理念的にもしだいに忘れられていったようである。」と述べている。家庭の中で父親が存在しない状態が増え，子どもとの関わりが減り，親子の関係が薄くなっている可能性があるのかもしれない。多賀（2005）は性別役割分業が否定される中での父親役割について，1990 年代前後から「父親による乳幼児の＜世話＞は，子どもの発達を促進し，母親の育児不安や育児の負担を軽減し，父親自身の生涯発達を促す傾向にある。」と指摘している一方，「父親の育児参加程度が，子どもの年齢にかかわらず，母親に比べて圧倒的に少ない。」，そして，日本女子社会教育会の調査によると「＜社会化＞役割にあたる「しつけ」については，「主に父親がする」と答えた者の割合はわずか 4 %に過ぎない。」と述べている。

社会的・経済的な背景により，父親の役割の内容が変化し，形成されている家庭文化も変わっていく。父親が養育行動として子どもに情愛的に関わり，成績を重視するしつけをする場合，子どもはそれが当然な行動だと感じず，自分のことに干渉していると認知している。調査対象は大学生であり，親から独立しようとする時期にあるため，干渉されたと思ってしまう一要因になるのかもしれないが，両国の大学生における父親への認知が共通している点から考えれば，日本と中国とでは，父親の家庭での役割が似ていると思われる。

内モングル教育という教育季刊において，新東方網（オンライン教育ウェーブサイトの名称）（2012）は，中国では家庭において，父親が子どもの教育を重視せず，父親の存在が薄くなっていると指摘している。その原因としては 1. 教育に関する考え方が古い，2. 家庭内において役割分担の偏りがある，3. 父親自身の責任認識が薄いことが挙げられた。伝統的な社会では，父親は働くことで家計を支える役割を担い，家族の物質上での満足を満たし，家庭の経済状況を改善して社会における地位を安定的に保つことが主な仕事になり，子どもの教育と養育を全て母親に託す。このような教育概念は現在の中国家庭でもよく見られる。

しかし，両国の大学生において，父親から情愛的な関わりや成績重視のしつけを受ける時，それが干渉だと認知していることは，大学生が父親から情愛的な関わりや成績重視のしつけを望んでいないことを示唆している。このような結果は，現代社会で強調されている父親が子育てをした方が望ましいであることと正反対になり，調査対象となった大学生の持っている父親の役割に関する認知は，現在の文化に影響されていないことが言えるだろう。日本大学生において，父親の役割への認知は自分の父親に影響されている可能性があるが，中国大学生においては，親より子どもの世話をする祖父母から受けた考え方や，伝統的な儒教思想に影響されているのかもしれない。

両国で相違が見られた「拒絶」と「ひいき」の因子については，しつけにおける家庭文化の違いによるものであると考えられる。中国では，“不打不成才（子どもを叩かないと，出世できない）”という，子どもに厳しくすることは子どものためだという伝統的な考え方がある。一方，現代の家庭には一人か二人の子どもしかいないため，生活の全ての面で子どもを中心にし，家庭内における子どもの地位が高くなるという文化が形成されている。しかし，父親からの厳しさと，自分が家族の中心にされているということは，現代の大学生にとって，受け止めにくいことなのかもしれない。本調査の対象となった中国人大学生は，1990 年代生まれの世代であり，“90 後”と呼ばれている。“90 後”が生まれた時代は，すでに中国の改革開放という政策の成果が現れ，情報化社会への急速な発展を遂げていたため，“90 後”は情報化社

会をどの世代よりも先に体験した世代であると言える。時代の発展と変化により“90後”の思想や理念は一世代上の中国人たちとは大きく異なり，現代の大学生が，父親の役割について，自分の父親とは異なる認識を持っている可能性がある。

2. 母親のしつけについて

日本人大学生にとっては，母親から成績重視のしつけを受ける時に過干渉と感じる傾向が高い。また，中国人大学生においても，母親からの成績の重視に加えて，厳しさや情愛的な関わりを受けた時，自分が干渉されていると感じていると言える。兄弟がいないことにより自分が家族の中心にされてはいるが，母親に干渉されていると感じる傾向があるのかもしれない。一方で，母親からの情愛的な関わりや激励を感じた場合は，学業や成績への期待によるものだと思うのかもしれない。

辻（1981）は母親を対象とした多くの研究から，しつけの仕方について，“①一つ一つのしつけ上の技術・手法よりは，その背景となっている親の子どもに対する態度が重要な意味を持つこと，②態度の好ましい方向としては，「あたたかさ」が特に大切なこと，③賞賛や理性に訴える積極的な愛情指向的なしつけは，罰や叱責に訴える権力行使的なしつけより望ましいが，無視や拒否による消極的な愛情指向的なしつけの使用は有害なこと”とまとめている。子どものしつけを担当する母親の役割は，養育態度の重要さが強調され，子どもへの情緒的な暖かみかつ理性的な関わりが求められており，拒否的接触が不適切なものとして見なされているといえよう。本研究における日本人大学生の結果からは，母親に対して「過保護（成績重視）」と「過保護（過干渉）」との相関しか示されなかった。これは，調査対象の大学生にとって，母親からの「拒絶」「情緒的暖かみ」「ひいき」のしつけが，彼らの持つ母親役割のイメージとほぼ合致するものであったと言えるだろう。本来，家庭内において教育的な機能を担うのは父親であるはずだが，現在その機能は母親が担う形に変わっている。つまり，母親が子どもに学業や成績重視のしつけをするという役割は，調査対象となった日本人大学生にとって，それが母親の果たす機能とは認識されておらず，そのようなしつけをされると，過干渉されていると感じることが考えられる。母親が自分の役割を果たした上で，父親の役割の一部も受け持つという形での日本の家庭文化が形成されているのかもしれない。

日本と比べて，中国人大学生は母親のしつけを自分への干渉として感じている。中国の封建社会から現代社会まで，女性は夫を助け，子に教える“良妻賢母”という役割として機能することが求められてきたが，90年代の改革開放以降，女性が社会に出て仕事に就き，自分の才能を発揮させるという新たな役割として機能している。激しい社会競争の中で，女性は出産後もすぐさま社会に復帰して仕事を継続するようになり，自分で子育てをする余裕をなくしつつある。そのため，子どもの世話を祖父母に託したり，あるいは訓練を受けた専門的な“育儿嫂（育児をするおねえさん）”を雇ったりすることで，オムツの交換やお風呂入れ，離乳食への移行，寝かしつけ，子どものしつけといった育児の一部もしくは全てを祖父母や育児のお手伝いさんに任せる。このように母親としての役割を他人に託し，十分に機能していないのが一つの社会現象になっている。

家庭内における子どもへのしつけに対して，母親としての役割の変化について，朱（2004）は，女性が自分や子ども，家庭生活への期待が高ければ高くなるほど，期待どおりになれない時に，子どもを自分の理想を実現する道具と見なす傾向がある。また，母親は子どもを自分の一部だと考え，自分の思う通りで子どもにものを与えたり，子どもの将来図を設計したりする。そして，子どもの前で「あなたのために，たくさんのことを犠牲にしたから，頑張ってほしい」と言うことが見られると指摘している。

調査対象となった中国人大学生が，母親からの厳しさ，情愛的な関わり，成績重視，自分が家族の中心にされている接し方を受けた時に干渉されていると感じていることから，母親のしつけが自分にとっては不適切だと認知している可能性があ

る。また，母親からの情愛的な関わりや激励を受けた場合，自分の学業や成績への期待によるものだと感じていることから，母親が自分との関わりより，成績への期待の方がより大きいと思っているのかもしれない。その背景には，調査対象となった大学生と母親との間の情緒的な関わりが薄いという問題が存在している可能性があげられ，母親の役割が十分に機能していない家庭文化が形成されていると考えられる。

3. 日本版 EMBU 尺度に関する日本と中国との比較

日本人大学生より中国人大学生が感じる父親と母親のしつけの仕方の方が拒絶的ではあるものの，より情緒的な暖かみがあることがわかった。親のしつけが厳しく，親との距離感を持つ一方で，親子には密接な関係があることが考えられる。また，成績に対する期待や個人への干渉は，中国人の親の方がより強いと言える。

日本の親が望む子どもの将来の姿について，1963 年に行なわれた教育問題に関する総理府の世論調査によると，家業継承を期待する親はわずかで，好きな道で自由に才能を伸ばし，収入のよい安定した職業につくことをわが子に期待する親が比較的多い結果が得られた。山田（1971）はこの調査結果について，“社会的に出世しなくとも，社会的な名望を手に入れなくとも，まちがいのない安定した生活を送ってさえくれたらとささやかに願う親の姿がある”と述べている。一方で，邢（2015）は日本と中国の家庭教育概念を比較する研究において，中国の親が子どもの出世を願い，高い得点を取り，名門に進学し，高い学歴を得ることを子どもに要求することがほとんどの家庭で見られると述べている。また，子どもは勉強だけに専念することを求められ，生活能力やその他の発達をほとんどないがしろにされたため，親に依存し自立する力が育てられなかったということが指摘されている。両国の親では子どもへの養育態度が異なり，子どもへの期待も明らかに相違があると言える。

日本版 EMBU 尺度に関する日本と中国との比較を通して，中国人大学生のほうが親のしつけをより自分への干渉と感じ，その背景には親の役割が十分機能していないということが考えられる。伝統的文化の立場から見れば，日本において，働くことで家計を支える役割を担う父親は機能をしていると言えるが，父親の家庭に不在より，昔のように父性的な役割をする父親が減少しているため，母親が自分の役割を果たした上で父親の役割を担おうとすることで，子どもを守るという家庭文化が形成されている。一方で，中国においては，父親と母親が家計を支える役割を機能し，情愛的に関わって，親としてのしつけをしようとしても，中国人大学生は，親が役割を果たしていないと認知している。日本のように小さい子どもを保育所などに預ける環境がないため，共働きをする親は，子どもの世話を祖父母である自分の親に託したり，お手伝いさんに任せたりするような現状になり，父親，母親，子どもの役割も含めた三者関係が成り立たない家庭文化が形成されている。

引用文献

Arrindell W. A., Emmelkamp, P. M., Brilman, E., et al. (1983). Psychometric evaluation of an inventory for assessment of parental rearing practices: A Dutch form of the EMBU. Acta Psychiatr Scand **67**, 163-177.

染矢俊幸・高橋三郎・門脇真帆・Reist, C.・Tang, S. W.（1996）. EMBU 尺度（養育体験認知に関する自己記入式調査票）の日本語版作成と信頼性検討. 精神医学, **38**(10), 1065-1072.

多賀　太（2005）. 性格役割分業が否定される中での父親役割フォーラム現代社会学　特集Ⅱ近代家族の揺らぎと親子関係, **4**, 48-56.

辻正三（1981）. 現代社会の期待する子どものしつけ. 桂広介・長島貞夫・真仁田昭・原野広太郎（編著）. 家庭のしつけ　家庭教育選集第 2 巻　株式会社金子書房., 61-72.

新东方网（2012）. 父爱在家庭教育中的重要性. 内蒙古教育・综合版. 内蒙古出版集团内蒙古教育出版社, 14-16.

邢晓舟（2015）. 中日家庭教育观念的比较. 吉林

省教育学院学报，**31**，119-120.
岳冬梅（1993）．父母教观方式：EMBU 的初步修订及其在神经症患者的应用．中国心理卫生杂志，**7**(3)，97-101.
山田良一（1971）．現代社会における家族と親子関係．　大西誠一郎（編著）．親子関係の心理．株式会社金子書房.，149.
朱晓静（2004）．家教中母亲的角色定位及问题的归因分析．滁州职业技术学院学报，**3**(4)，34-35.